

学位授与番号：乙 3217 号

氏 名：作田 健一

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 30 年 3 月 14 日

学位論文名：

Chronic kidney disease is independently associated with acute recurrent cerebral infarct in patients with atrial fibrillation.

（心原性脳塞栓症の急性期における脳梗塞の再発に慢性腎不全が独立して関連する）

学位論文審査委員長：教授 村山雄一

学位論文審査委員：教授 南沢享 教授 横尾隆

論文要旨

氏 名	作田 健一	指導教授名	井口 保之
<p>主論文</p> <p>Chronic kidney disease is independently associated with acute recurrent cerebral infarct in patients with atrial fibrillation (心原性脳塞栓症発症後の急性期脳梗塞再発には慢性腎臓病が独立して関連する)</p> <p>Kenichi Sakuta, Yasuyuki Iguchi, Takeo Sato, Kenichiro Sakai, Yuka Terasawa, Hidetaka Mitsumura Journal of Clinical Neuroscience, 2017 ; 40 : 97~101.</p>			
<p>要旨</p> <p>【背景】 心房細動に伴う心原性脳塞栓症は重篤かつ予後不良で、近年発症率は増加傾向にある。心原性脳塞栓症発症後における急性期脳梗塞再発の高リスク患者の辨別、抗凝固薬開始時期など臨床に重要な事項は未だ不明である。本研究では心原性脳塞栓症例を解析し、急性期脳梗塞再発に関連する因子、抗凝固療法の開始時期について検討した。</p> <p>【方法】 発症 24 時間以内の心房細動を有する心原性脳塞栓症例を対象とした。全例に対して頭部 MRI 拡散強調像は、入院 24 時間後、入院 7 日目、もしくは症状悪化時に撮影し、脳梗塞再発の有無を確認した。再発群と非再発群を比較し、統計解析を行うことで再発に関連する因子を検討した。</p> <p>【結果】 79 例（男性 56 例、年齢中央値 75 歳、NIHSS 中央値 4）を登録した。全例に対し抗凝固薬は発症から中央値 2 日間で開始した。脳梗塞の再発は 10 例（13%）で認め、うち 7 例は症候性再発であった。入院から症候性再発が確認されるまでは中央値 7 日間であった。再発群では女性が多く（70%対 23%, $P = 0.005$）、高齢で（82 歳対 75 歳, $P = 0.049$）、慢性腎臓病の合併率が高かった（50%対 16%, $P = 0.025$）。多変量解析では慢性腎臓病のみが脳梗塞再発に独立して関連する因子であった（オッズ比 8.20, 95%信頼区間 1.30 – 51.56, $P = 0.025$）。</p> <p>【結論】 本研究から、心房細動を有する心原性脳塞栓症例では、1）入院後中央値 5 日間で急性期脳梗塞再発を認め、2）その関連因子は慢性腎臓病であることが明らかになった。早期に抗凝固薬を開始しているにもかかわらず脳梗塞が再発した機序は、1）慢性腎臓病による凝固促進効果、2）抗凝固薬投与初期の Protein C/S 抑制に起因する過凝固状態と推測する。心房細動を有する心原性脳塞栓症の急性期脳梗塞再発は、抗凝固療法開始時期を遅らせることにより抑制できる可能性が示唆された。本研究を基にして作成した新たな診療プロトコールからさらなる臨床データを蓄積し、新たな知見を発信したい。</p>			

学位論文審査結果の要旨

作田健一氏の学位申請論文の日本語タイトルは、「心原性脳塞栓症の急性期における脳梗塞の再発に慢性腎不全が独立して関連する」であります。

平成 30 年 2 月 20 日に、審査委員長 村山雄一教授、審査委員 南沢 享教授、横尾 隆教授の出席のもとに公開学位審査会を実施しました。

作田健一氏から研究概要について発表し、引き続き口頭試験を実施しました。

作田健一氏は審査委員からの質問に対して、適切に回答しました。
審査委員で審議した結果、本研究内容を学位論文として価値あるものと認定しました。

